

松山商業高校「地域ビジネス科」Q&A

Q 1 「地域ビジネス科」とは、どのような学科ですか。

A 1

地元企業や自治体など、地域から求められている、地域産業を担うリーダーの育成を目指す学科です。

具体的には、簿記、国語、英語など、基礎学力を確実に身に付けるとともに、地域で学び地域で就職する「地学地就」の観点から、地元企業や大学等と連携した地域イベントのプロデュースや、地元産品を活用した商品開発など、実践的・体験的な学習を多く行います。

Q 2 「地域ビジネス科」の卒業生の進路先はどのようなところですか。

A 2

就職については、事務、販売、営業職など、本校の長年にわたる地域に根ざした活動によって築いてきたネットワークを生かして、地元企業での就職を考えています。

進学については、松山大学や愛媛大学社会共創学部のほか、「地域創生」に関する教育活動を展開している学部・学科を設置した国公立大学、有名私立大学（明治・立教・中央・関西・武蔵・龍谷・近畿・中京等）などを想定しています。

Q 3 「地域ビジネス科」の学習の特徴は何ですか。

A 3

「松山学」という科目を学習します。「松山学」は、松山の観光・文化・歴史に関する学習を行い、松山についての知識をより深く身に付け、将来、地域（松山）を担う人材を育成するための科目です。また、地元産品を活用した商品開発を行う「商品開発」や、地元産品の販売促進について学ぶ「マーケティング」という科目も学習します。

Q 4 「松山観光文化コンシェルジェ検定」とはどのようなものですか。

A 4

この検定は、松山商工会議所が主催しており、初級と中級があります。1年生では初級の合格を目指します。松山商工会議所が刊行している「松山観光文化コンシェルジェ検定ガイドブック」には松山の観光・文化・歴史に関する情報が掲載されており、観光客に対するおもてなしに役立てることができます。このガイドブックで学習し、検定試験で90点以上をとれば初級に認定されます。

Q 5 「ふるさとふれあい塾」とは、どのようなものですか。

A 5

「ふるさとふれあい塾」とは、松山商工会議所と松山大学が運営している公開講座です。この講座の目的は、松山の魅力について自信を持って案内できる人材の育成で、松山大学の学生や一般市民を対象に「松山大学特殊講義」として実施しています。これは、地域ビジネス科が目指す生徒の育成にも役立ち、様々な業界で活躍されている異世代の方々ともふれあえることから、本校生の参加を考えています。

Q 6 「1,000日実習」とは、どのようなものですか。

A 6

生徒一人に一店舗（企業）、担当を決め、3年間その店舗（企業）での実習を行います。実習の内容は、随時行う店舗（企業）の商品陳列、接客業務だけでなく、店舗（企業）の活性化に必要な企画などを提案し実現させることを考えています。流通ビジネス科の販売実習が、接客などに重点を置いた実習であるのに対し、地域ビジネス科は、主として経営戦略等について学びます。実施先の店舗（企業）は、松山ロープウェー商店街、道後商店街等で40店舗（企業）などを予定しています。

Q 7 「ふるさとえひめ学」とは、どのようなものですか。

A 7

大街道の歴史についての講義を受講したあと、現地大街道でフィールドワークを行い、講義で得た知識の確認をします。講師には、愛媛県教育委員会生涯学習課から講師を招き、「大街道編」のほかに、「ロープウェー商店街編」「道後温泉・道後商店街編」などの実施を予定しています。